

2016 年度（平成 28 年度）  
学部・学科・研究科による FD 研修会  
実施報告書

福山大学 大学教育センター  
教育開発部門

## はじめに

教育基本法はその第9条で教員の資質・能力の向上について定めている。曰く、「法律に定める学校の教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。」「前項の教員については、その使命と職責の重要性にかんがみ、その身分は尊重され、待遇の適正が期せられるとともに、養成と研修の充実が図られなければならない。」と。学校教育法のいわゆる1条校たる大学の教員が、ここにいう教員に含まれないはずはない。とりわけ、大学を取り巻く内外の環境の劇的な変化の中で教員に求められる資質・能力が高度化し拡大している状況の下、それに対応しうるための研修の重要性は日増しに高まっていると言っても過言ではない。平成25年5月28日に教育再生実行会議はその第3次提言「これからの中大教育等の在り方について」の中で、次の5つの課題を掲げた。すなわち、①グローバル化に対応した教育環境づくりを進める、②社会を牽引するイノベーション創出のための教育・研究環境づくりを進める、③学生を鍛え上げ社会に送り出す教育機能を強化する、④大学等における社会人の学び直し機能を強化する、⑤大学のガバナンス改革、財政基盤の確立により経営基盤を強化する。これからの中大教員に求められる資質・能力とは、これらの課題に適切に対応しうる力であろうし、そのための研修機能ないしFD（ファカルティ・ディベロップメント）の充実強化がいっそう図られねばならない。

本学では、授業内容・方法の改善、教員の資質・能力向上等、大学教育の質的な向上を目的とした組織的な取り組みとしてのFDの重要性が早くから認識され、十数年前から研究・研修活動が続けられている。当初は、教務委員会および自己評価委員会が中心となって企画・運営されてきたが、平成21年4月に大学教育センターが設置されると、翌々年の平成23年（2011）以降は、センターの教育評価・改善部門（平成26年度より教育開発部門に改称）がその役割を引き継ぎ、今日に至っている。そのため、「大学教育センター規則」の第3条には、担当業務10項目のうちの第二として「教育内容・教育方法の改善に係る全学的な企画、推進、組織的な研修（FD）に関すること」が明記されている。同規定に基づき、全学的な取り組みとして現在実施されているFDは、別に報告しているとおり極めて有効であり、よく整備されている。この進捗度を更に加速し、実りあるものにすることが求められている。また、規模や内容など大学や学部・学科の特色が異なるれば、ファカルティ・ディベロップメントのニーズが異なるのは明らかであり、大学全体としてのFDの取り組みの他にも、各学部や学科単位で研修活動が行われることが望ましい。こうした観点に立って、本学では全学的なFDに加えて、学部・学科ごとにもFDの諸活動を展開してきている。本報告書は、こうした学部・学科・研究科別に平成28年度中に実施した研修会の記録をまとめたものである。

大学教育センター

センター長 大塚 豊

教育開発部門長 田村 豊

平成 28 年度 学部・学科・研究科主催による研修会実施一覧

【学部・学科主催】

学部・学科名	テーマ	実施回数	実施場所	実施日時	講師	参加者数	成果
経済学部	カリキュラムマップ作成 GIO(General Instructional Objective)の作成	1回	大学会館 CLAFT	平成 28 年 4 月 26 日	薬学部 石津 隆 教授	9名	実際的なカリキュラムマップ作成方法を学んだ。
経済学部	IR のステップ リサーチ・クエスチョン	1回	大学会館 CLAFT	平成 28 年 11 月 4 日	立命館大学 鳥居 朋子 教授	4名	IR についての考え方、アプローチを学んだ。
人間文化学部	Cerezo に関する研修	1回	1号館 5 階 第 1 会議室	平成 28 年 7 月 13 日 17:10~約 1 時間	共同利用センター 片桐 重和 助教	21名	学修支援・管理システム 「Cerezo」に関する知識が深まった。
人間文化学部	研究倫理教育研修	1回	1号館 5 階 第 1 会議室	平成 28 年 10 月 5 日 17:10~17:40	心理学科 平 伸二 学部長	26名	研究倫理に関する知識を取得・再確認できた。
人間文化学部	学生支援に関する研修	1回	1号館 5 階 第 1 会議室	平成 28 年 1 月 18 日 人間文化学部教授会終了後 30 分	心理学科 松本 明生 准教授	26名	学生支援に関する知識が高まった。
人間文化学部 人間文化学科	教学 IR の FD 研修の情報共有	1回	1号館 4 階 資料室	平成 28 年 11 月 16 日 (水) 18:05~19:02 の学科会議内	人間文化学科 重迫 隆司 教授 柳川 真由美 講師	6名	教学 IR の FD 研修の情報を共有できた。

人間文化学部 メディア・映像学科	大学教育におけるIRについて	1回	19号館 19405教室	平成28年 12月22日 13:00~13:30	メディア・映像学科 中嶋 健明 教授 田中 始男 教授	7名	大学におけるIR活用についての見識が広がった。
人間文化学部 心理学科	カリキュラム・マップの見直し	3回	29号館コ ミュニティ ルーム	平成28年 5月18日(水) 18:00~18:40 6月15日(水) 18:30~19:00 7月6日(水) 18:00~18:30	心理学科 野寺 綾 准教授	11名	H29年度に向けて、心理学科のカリキュラムマップが作成された。
人間文化学部 心理学科	大学教育におけるIRについて	1回	29号館コ ミュニティ ルーム	平成28年 12月22日 13:00~13:30	心理学科 野寺 綾 准教授 宮崎 由樹 講師	11名	大学教育におけるIR活用についての知見を広めた。
工学部	卒業研究、卒業設計の点数評価について事後検討 －各学科の事例報告ならびに振り返り－	1回	2・3・4号 館 03305教室	平成29年 3月14日	スマート システム学科 香川 直己 教授	31名	卒業研究、卒業設計の点数化の課題と工夫が明らかになった。
工学部 スマート システム学科	ロボット時代への適応	1回	2・3・4号 館 03304教室	平成29年 2月10日	株式会社ロボ・ガ レージ 高橋 智隆 社長	11名	特別講義として開催。AIを含む今後の先端技術の動向の知見を得た。
工学部 スマート システム学科	H28年度授業評価の振り返り	1回	工学部棟会 議室	平成29年 2月20日	スマート システム学科 香川 直己 教授	10名	前期および後期の授業評価アンケート報告書を開示し、意見交換した。

工学部 機械システム 工学科	授業成績評価方法について	1回	24号館 4階 会議室	平成29年 3月8日 11:20～12:10	なし	8名	・授業成績評価方法について 学科内の教員相互の情報交 換を行った。 ・試験問題・答案採点状況を 回覧・確認し、各教員の授業 成績評価状況を周知した。
工学部 情報工学科	授業評価アンケート結果の 分析	2回	情報工学科 会議室	平成28年 10月19日 平成29年 3月14日	学科教員全員	9名	良い授業の手法を共有でき た。
生命工学部	卒業研究を評価するにあ たってのルーブリックの作 成について	1回	28号館 28102教室	平成29年 3月4日	生命栄養科学科 菊田 安至 教授 海洋科学科 北口 博隆 准教授	30名 (学部 全体)	卒業研究の評価に資する ルーブリック策定へ向けた 情報共有
生命工学部 生物工学科	アクティブラーニングとし ての「果樹栽培加工実習」の 進め方と評価法	2回	17号館 1階 1712 実習 室	平成29年 1月16日 平成29年 1月23日	生物工学科 吉崎 隆之 講師	9名	今年度の評価法の確定と課 題の纏め、及び次年度への 展開法
生命栄養 科学科	生命栄養科学科 IR 研修会	1回	18号館 18203 実習 室	平成29年 1月30日	生命栄養 科学科 村上 泰子 准教授 近藤 寛子 助教	13名	別途記載※1

海洋生物 科学科	卒業研究のループリック評 価について	1回	16号館 1階 図書 セミナー室	平成29年 3月7日	海洋科学科 北口 博隆 准教授	5名	北口准教授から説明された 他大学での例を参考にして、「卒業研究」の到達目標 および成績評価の方法・基 準にもとづいたループリック 評価表の海洋生物科学科案を作成した。
薬学部	学修支援システム Cereso (セレッソ) の利用促進に について	1回	34号館 3階会議室	平成28年 6月23日 16:20~17:20	共同利用センター 片桐 重和 助教 薬学部 渡邊 正知 准教授	41名	学修支援システム Cereso (セレッソ) の様々な利用 法について理解できた。
薬学部	OSCE におけるトラブル事 例を基盤とした意識改革	1回	34号館 3階会議室	平成28年 9月29日 16:30~17:00	薬学部 江藤 精二 教授	47名	OSCE をトラブルなく円滑 に運営することができた。
薬学部	レギュラトリーサイエンス について	1回	34号館 3階会議室	平成28年 11月24日 16:00~16:30	薬学部 石津 隆 教授	47名	レギュラトリーサイエンス の概念と意義について理解 することできた。
薬学部／大学 院薬学研究科	未来を牽引する大学院教育 改革	1回	34号館 3階会議室	平成28年 6月30日 17:25~17:55	薬学部 森田 哲生 教授	34名	中央教育審議会大学分科会 の未来を牽引する大学院教 育改革について理解でき た。
大学教育 センター	平成28年度第1回 授業研究	1回	1号館 1階 01109教室	平成28年 5月19日 13:00~14:30	大学教育センター Jason Lowes 講師	8名	公開授業の観察・事後の討 議を通じて相互に授業改善 方策を探ることができた。

大学教育センター	平成 28 年度第 2 回 授業研究	1 回	1 号館 1 階 01105 教室	平成 28 年 6 月 27 日 10:40~12:10	大学教育センター 劉 国彬 准教授	8 名	公開授業の観察・事後の討議を通じて相互に授業改善方策を探ることができた。
大学教育センター	平成 28 年度第 3 回 授業研究	1 回	1 号館 2 階 01212 教室	平成 28 年 10 月 25 日 14:40~16:10	大学教育センター 中尾 佳行 教授	8 名	公開授業の観察・事後の討議を通じて相互に授業改善方策を探ることができた。
共同利用センター	Office365 を教育研究に有効活用するために	1 回	1 号館 01313 ゼミ室	平成 28 年 12 月 6 日 16:20~17:50	マイクロソフトパブリックセンター 中村 仁吏 氏	54 名	Office365 の持つ多くの機能を紹介いただき、グループワークなどで有効に活用できることが分かった。

【研究科主催】

研究科名	テーマ	実施回数	実施場所	実施日時	講師	参加者数	成果
経済学研究科	大学院改革について	1 回	1 号館 5 階会議室	平成 28 年 11 月 16 日	経済学部 古島 義雄 教授	13 名	大学院の現状と今後の方について、討論を行った。
人間科学研究科	本学の大学院教育の課題： 中教審答申と大学院教育振興施策を手掛かりに	1 回	29 号館 コミュニティ ルーム	平成 28 年 7 月 13 日 18:00~19:00	人間文化学部 青野 篤子 教授	9 名	研究科の課題を討議し、重点課題を策定した。
人間科学研究科	成績評価とフィードバックについて	1 回	29 号館 コミュニティ ルーム	平成 28 年 11 月 30 日 18:30~19:00	人間文化学部 青野 篤子 教授	8 名	フィードバック方法の改善について情報交換ができた。

工学研究科	教員の研究支援－中教審答申をふまえて－	1回	2・3・4号館 03305教室	平成28年 9月29日	工学部 山之上 卓 教授	37名	外部資金採択率向上のため、採択実績のある教員から実例紹介。
大学院薬学研究科／薬学部	未来を牽引する大学院教育改革	1回	34号館 3階会議室	平成28年 6月30日 17:25～17:55	薬学部 森田 哲生 教授	34名	中央教育審議会大学分科会の未来を牽引する大学院教育改革について理解できた。

#### ※1 生命栄養科学科のFD研修内容

##### 平成28年度 学科FD研修 IR研修

日時：平成29年1月30日（月） 13:00～14:50

場所：18号館 18203 臨床栄養学実習室

出席：菊田、石崎、山本英、赤木、久保田み、高橋、村上、石井、近藤、中崎、山本沙、神波、久保田結

欠席：井ノ内、西山

進行：村上、近藤

##### I 研修の概要

###### 1)IRについて

村上准教授より、IRの説明があった。IRとはInstitutional Research(機関調査)のことであり、調査のみで終わるのでなく、その結果を元にして、実際の改善策へ反映できる調査である。具体的な改善策が導き出せるような問い合わせリサーチクエスチョンを元にデータ収集し、実践へ繋げられることが示された。

###### 2)大学FDでの進行例

近藤助教より、大学FDで行った「学生の満足度を高める」をテーマとしたグループワークについて説明があった。

###### 3)グループワーク

1 グループに菊田、高橋、石井、神波、久保田結、2 グループに、山本英、赤木、久保田み、石崎、中崎、山本沙と分かれ、各グループで「管理栄養士国家試験の合格率を上げる」をテーマにワークを行った。

1 グループでは、クリニカルクエスチョンとして、合格する人は①学習習慣を入学前から有する、②早期から目的意識が高い、③自宅学習の時間を確保していることが挙げられた。これをリサーチクエスチョンにすると、①入学前の学習習慣、②大学での学習時間、③早期からの目的意識、④目的意識の維持が合格率に影響すると考えられた。必要なデータは、①学習習慣、時間調査、基礎学力テスト、アンケート、②科目ごとの時間と課題、授業評価、試験の成績と合格率、③入学時の資格の理解、目的意識を問い合わせ、④学生への振り返りアンケートをとることが挙げられた。

2 グループでは、クリニカルクエスチョンとして「合格する学生は管理栄養士になるモチベーションが高いこと」が挙げられた。すなわち、リサーチクエスチョンは「管理栄養士になるためのモチベーションが合格率に影響する」である。学生のモチベーションを測るために必要なデータは、①成績表、②国家試験のモチベーションを問う面談を定期的に行い、その記録、③授業への出席状況調査が考えられた。

以上の検討を踏まえ、特に、入学前や1年次における資格取得に向けたモチベーション向上が重要と考え、「4年生への振り返り調査（入学時の意識調査と成績との関連）」や「平成29年度新入生への意識調査・基礎学力調査」の実施を検討することになった。結果に基づき、入学前教育や1年次の教養ゼミ、キャリアデザインⅠの内容の見直しを行う。